

# 風景の中で 4

図書館長 井上 郷子

冬の気配が漂う昨年11月、私はチェコ共和国の首都プラハにいました。チェコは多くの優れた音楽家を輩出した国です。今回はほぼ毎年秋に開催されている現代音楽祭に招かれたのですが、中世の風情が残るこの美しい街を心から楽しみました。音楽祭が催された場所は、ヴルタヴァ川(モルダウ川)で挟まれたホレショヴィツェ地区にある「DOX centre for contemporary art」で、美術館とホールがある建物から成っています。DOXの建物の壁には、「フルクサス」関連のアーティスト、ロベール・フィリュウの言葉「Art is what makes life more interesting than art」など含蓄に富む短い文がいくつも記され、歩いていると躍動する文字が目飛び込んできます。ここで自分たちの芸術を作っていくのだ、という情熱と心意気、自負心が直截に感じられ、何ともわくわくしました。偶然、リハーサル中のドイツのグループの演奏を聴きましたが、言葉と声、楽器、エレクトロニクスによるパフォーマンスは、作曲、演奏ともに細部まで練り込まれた非常にレベルの高いもので、本番はさぞかし聴き応えがあったことでしょう。私の公演はソロリサイタルで、近藤譲さんのピアノ曲を2曲、モートン・フェルドマン作品、チェコの

作曲家、ルボシュ・ムルクヴィチカのピアノ曲の初演をしました。

海外公演の際には、本番までの練習のマネジメントがとても大事です。今回はプラハ音楽アカデミーが練習室を用意してくださいました。ピアノはホールでも音楽アカデミーでもペトロフというチェコのメーカーのピアノで、タッチも音色も独特、音楽祭のスタッフも作曲家も「いいだろ、ペトロフは。チェコメイドなんだぞ」と嬉しそうに自慢げに私に語っていました。

アカデミーの部屋の窓からは広場を挟んで、モーツァルトが弾いたオルガンがある教会が見えます。かつてのプラハの人々はモーツァルトに対して温かく接し、「ドン・ジョヴァンニ」の初演も1787年、スタヴォフスケー劇場(エステート劇場)で作曲者自身の指揮によって行われました。彼のオペラは今もこの劇場の主要なレパートリーです。

たった1週間の滞在でしたが、歴史を誇りに思うとともに今自分たちが作っていく音楽を尊び、楽しむという懐の深さを持つ人々と出会い、地に足が着いた豊かな人間の営みといったものを垣間見た思いがしています。

## 資料の部屋 ④

図書館員  
高橋 京子

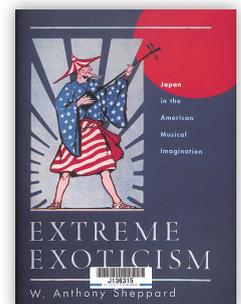
皆さんそれぞれ新しい学年になり、夢や希望に胸膨らませ、また卒業後の進路など将来の事と向き合っている時期でしょうか。さて今回は、洋書の新刊をご紹介します。外国語と見ただけで遠ざけたい、私も学生時代は思いました。でもちょっと興味もありますよね。異文化を知る大きな手掛かりとなる事は、間違いありません。

選んだ本は、まず表紙に目を引かれました。アメリカで出版された楽譜の表紙をデザインしたもので、星条旗柄の衣装を着た人物が三味線を弾いています。タイトルは『Extreme Exoticism』、直訳すると「極端な異国情緒」となります。サブタイトルに、「Japan in the American Musical Imagination」とあります。意識すると「アメリカ音楽と想像の日本」となるでしょうか。

内容は、アメリカにおける「日本の音楽」受容史といったところです。ヨーロッパでは、19世紀後半から20世紀初頭「ジャポニスム(Japonisme仏語) = 日本趣味」が話題になり、多くの芸術家の表現へと結びつきました。よくドビュッシーの前奏曲集など例にあげ

られますね。同時代のアメリカ人にとっても、日本の文化は「エキゾチック(exotic)」なものだった事でしょう。ハリウッド映画が、日本の印象や音楽を広めた事、日系二世の音楽家の活躍についても触れられています。目次の後に「Glossary of Japanese Musical, Theatrical, and Aesthetic Terms」として、この本に出てくる日本の音楽や美学に関する用語一覧があります。それぞれ、1行で特徴が分かり易く解説されています。付録には、1815~1940年にアメリカで作曲された「日本」と関連している作品が一覧できるようになっています。タイトルに“Japan”と入っているものばかりではありません。本文を読むのが…という方は、こういったリストを見るだけでも面白いでしょう。

『Extreme Exoticism: Japan in the American Musical Imagination』  
Sheppard, W. Anthony  
Oxford University Press 2019  
請求番号●J136-315



たかはし きょうこ ● 今年は、日本文化を意識したイベントが多いですね。是非、この機会に経験、体験してみましよう！